

交 通 業	119.6	122.6	3.0
鉱 業	52.1	65.7	13.6

三、軍動員及軍需生産ノ拡充強化ニ伴フ人的国力ノ推移状況

大東亜戦争後半期特ニ昭和19年度以降動員ノ劃期的強化ト軍需生産ノ飛躍的拡充ノ影響ヲ蒙リ比較的余裕アリシ我が國人的資源モ亦漸ク逼迫ヲ告ケ特ニ本土決戦準備時期ニ於テハ人的動員ハ尤大ナル兵員ヲ必要トスルニ至リ軍動員ト総動員トノ節調漸ク破綻ニ瀕セントスルノ窮状ヲサヘ露呈スルニ至レリ

即チ昭和20年度（前半期）生産計画ニ基ク所要労働力ニ対シ動員可能労働力ハ約250万ノ不足ヲ示シ之カ充足ノ為ニハ不急産業ノ徹底的圧縮、未動員学徒ノ完全動員、國民皆勤態勢ノ確立、朝鮮、台湾人等外地労働力ノ移入等ニ依リ之カ解決ヲ図ラントセシモ既ニ不急産業ハ國民生活ノ最低限近ク圧縮セラレ外地労働力ノ移入モ亦海上交通ノ杜絶ノ為不可能トナリ本土決戦兵備建設ト共ニ國內到ル所ニ労働力ノ数的不足ト質的低下ヲ招来スルニ至レリ。

第二節 総動員トノ節調保持ニ関シ軍動員上 若意セル事項

軍動員実施ニ方リテハ常ニ軍動員ハ「総動員ニ優先ス」トノ觀念ノ下ニ施策セラレタルモ軍動員ノ強化軍需生産ノ拡充等ニ伴ヒ特ニ総動員トノ節調保持ニ関シ慎重ナル考慮ヲ払ヒ相互ニ能ク均衡ヲ保チ以テ人的国力ノ綜合發揮ニ遺憾ナカラシメタリ而シテ此種施策中主要ナルモノハ、(1)召集延期制度、(2)臨時召集延期制度、(3)入營延期制度、(4)特別召集解除制度、(5)召集要考慮制度等ニシテ軍需生産左程ニ大ナラス、且動員兵力300万内外ヲ出テサリシ昭和18年度頃迄ハ総動員的ニハ余人ヲ以テ代ヘ難キ特技ヲ有スル者ヲ主トシテ確保スルコト即チ質ノ確保ニ努メタルモ軍動員、軍需生産逐次拡充強化セラルルニ及ビ質ノ確保ノミニテハ到底所要ノ軍需生産ヲ確保シ難キニ到リ質ノミナラス某程度量（労働力）ノ確保ヲ必要トスル

(228)

ニ到レリ、

以下細部ニ付キ述フレハ下ノ如シ、

一、召集延期制度 軍需生産ノ為余人ヲ以テ代ヘ難キ重要ナル者（技術者、特種研究員、其ノ他生産ノ中核的要員等）ニ對シテハ召集ヲ延期シ一意生産増強ニ邁進セシム、之カ為陸軍大臣ハ年度ニ於ケル総動員ノ見透ヲ助家シツツ軍動員上許容シ得ル範囲ニ於テ召集延期人員數ヲ各業務部門毎ニ関係監督官庁ニ配当ス各官庁ハ配当人員内ニ於テ軍需生産上真ニ缺クヘカラサル者ヲ選定シ其ノ名票ヲ陸軍大臣ニ呈出、陸軍大臣該當者ヲ決定ス、

召集延期人員ハ大東亞戰爭開始迄ハ約ノ〇万以下ニ過キサリシモ昭和ノ8年度ニ於テハ約38万昭和ノ9年度ニ於テハ約40万昭和20年度ニ於テハ約85万ニ上レリ、

二、臨時召集延期制度

前号ノ如ク年度初頭ニ於テ所屬ノ人員ニ對シ召集延期ノ措置ヲ講スルモ昭和ノ9年度以降ニ於テハ戦局ノ推移予想ト異ナリ特ニ戦局ノ要請ニ基ク飛行機ノ緊急増産、航空重兵器種ノ急速整備等絶対的要求ノ為之等重兵器種生産ニ従事シアル兵役國家者ニ對シテハ殆ト全員ニ對シ臨時ニ召集ヲ延期スルノ非常措置ヲ講シタリ、

三、入營延期制度、

通令壯丁ニシテ重要軍需生産ニ従事シアル者中特ニ緊要缺クヘカラサル者ニ對シテハ一般入營壯丁ニ比シ某期間（生産上必要ナル代替準備ヲ考慮セル期間）其ノ入營時期ヲ延期シ多數壯丁ト同時入營ノ為軍需生産ニ支障ナカラシムル如ク措置セリ、

特ニ本制度ヲ考慮セルハノ9年度適齡低下ニヨリノ9歳20歳ノ2年齡層ノ者同時徵集セラレ其ノ軍需生産ニ及ボス影響相当大ナルモノアリシヲ以テノ9年度約20万（ノ9、20歳併セテ）、20年度約6万ヲ配当セリ、

而シテ此ノ適用ヲ受ケタル主要ナル業種ハ飛行機工業、交通業、鉾山、特ニ石炭業、造船業、特攻兵器製造業等ナリ、

四、特別召集解除制度、

(209)

既ニ召集ヲ受け在隊シアル者中軍需生産確保上特ニ必要ト
スル者ニ対シテハ軍ノ統率、団結、軍ノ志氣上差支ナキ範圍
内ニ於テ個々ノ詮議ノ上之ヲ特別ニ召集解除スルノ措置ヲ講
ゼリ、

而シテ特別召集解除者數ハ昭和ノ8年3月ヨリ昭和20年
4月ニ至ル間ニ於テ約4万3千名ナリ其ノ内訳ヲ掲クレバ下
ノ如シ、

航空機生産関係者	約3万
石炭関係者	約3千
交通関係者	約2千5百
其ノ他	約千

五、召集要考慮制度

本土決戦兵器ノ建設ノ爲ニハ銃後生産部門ノ中核的地位ニ在ル
在郷軍人ヲ多量召集ヲ前提条件トス、斯ケテハ軍需生産ハ勿論、
国民生活ノ必須部面ニモ深刻ナル影響ヲ及ボスヘキヲ考慮シ特ニ
戦争遂行緊要ナル産業例ヘハ農林水産業、交通業、鉱業特ニ石炭
業航空機及地上兵器製造業等ニ従事シアル全在郷軍人約ノ60万
(召集可能ナル全在郷資源ノ約37%ニ相当ス)ニ対シ昭和20
年4月以降当分ノ間得員上真ニ已ムヲ得サル場合ノ外ハ之ヲ召集
セサル如ク考慮セリ、

第三節 兵力源ノ拡充ト国民生活ニ及ボセル影響

大東亜戦争開始以來屢次ニ亘ル軍動員ノ強化ノ爲在郷資源モ逐次
減少ヲ来シ軍ノ増強益々痛感サルルノ時在郷資源ノ素質益々劣弱ト
ナリ、且将来戦局ノ進展ニ伴フ軍動員ノ強化ニ対処シ得ンカ爲ニハ
兵力源拡充ノ要急々切ナルモノアリシニ鑑ミ昭和ノ9年度ニ於テ徵
兵適齡ヲ20才ヨリノ9才ニ低下シ且兵役年限ヲ40才ヨリ45才
ニ延長スルト共ニ徵兵適齡以下ノ第一國民兵を兵籍ニ編入スル等ノ措置ヲ
講シタリ、

之等ノ施策実行ノ結果拡充シ得タル兵力源ノ概數下ノ如シ、

(210)